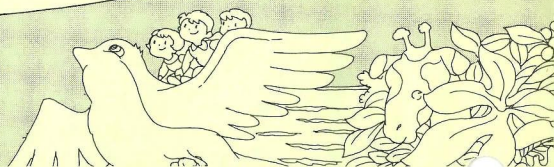


月刊

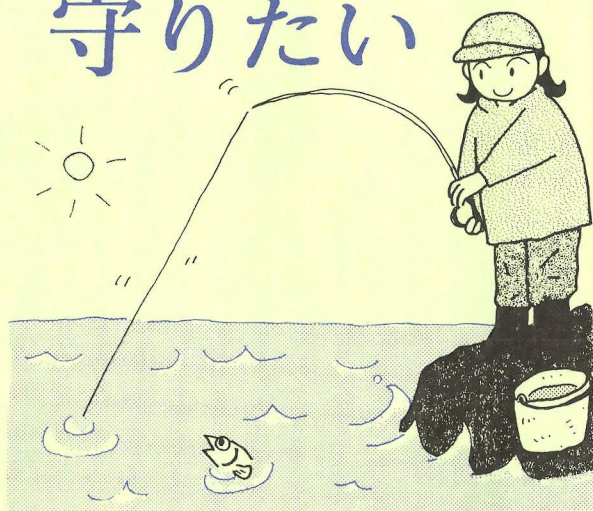
リサイクルデザイン

地球が与えてくれた贈り物を大切に
リサイクル社会の実現をめざしたい

リサイクルデザインは、横浜市内の資源回収業者の組合(139業者が加盟)による、市民と組合員にリサイクルの情報・回収の実情を伝えるための情報誌です



きれいな 海を 守りたい



最近、釣りがブームになっています。釣り糸をたれる人の中には若い女性の姿も見られるようになります。釣り人口の広がりを感じさせられます。ところがこの釣りブーム、思わぬ海の汚染をひきおこしていることをご存知でしたか。釣りをする時には釣針の先に餌をつけます。そして魚を寄せるためにまわりにコマセと呼ばれる餌を撒きます。これだけでも撒かれるコマセはかなりの量なのです。が、釣りが終わって帰る時にも、

「魚の餌になるのだから」と軽い気持ちで余ったコマセを海へ捨てて帰る人が非常に多いのが問題です。こうして撒かれた多量のコマセが海を汚しているのです。ある統計によると、相模湾で一年間に釣られる魚は4700トン、これに対して撒かれるコマセの量はそれをはるかに上回る6200トンにも及ぶそうです。こんなに多くては魚も食べきれませんから、コマセは海を漂い、次第に沈んで海底にたまっていきま

す。やがて海水は栄養過多の状態になり、赤潮を引き起こす原因となります。

また、コマセが分解される時に出るアンモニアが、海藻の生育に強い影響を与えることもわかっています。海藻が生えなくなれば磯が砂漠化して魚の餌がなくなり、やがては魚が相模湾に入ってこなくなることも考えられます。生態系が変化しつづけるという報告もあります。

地元ではこうした事態に対処するため、船釣りについてはコマセの量を制限する自主規制を設けました。しかし、陸での釣りについては野放し状態なのが現状です。

これまで海洋汚染の原因とさえ言え、油や工場廃水・し尿といった個人では引き起こしにくいようなものがほとんどで、自分とは関係ないという意識でいることが多かったように思います。これから、私たち一人一人が汚染の原因を作る可能性を持ち合わせていることを意識しながら、自然と仲良く釣りやキャンプを楽しむようにしたいものです。

「私達の手で農作物の生命を育てる。」

そして実ったものを私達が食べる。
いのち

生命を互いに育て合っているんですね」

——生徒の言葉から

「農作業をしていて、しかも堆肥まで自分たちで作っている学校があるらしい」と聞き、ぜひ畑や堆肥の山を見せていただかなければ……と取材にうかがったのが、横浜市鶴見区にある橘学苑です。お目にかかるやいなや、「環境についての特別な教育をしているわけではないので、とりたててお話しできることはないのですけれど」とおっしゃった和田校長でしたが、お話をうかがうにつれ、つい身を乗り出してしまふ興味深いお話しばかり。環境教育の一例として、ご紹介しましょう。

女子高等学校）では、昭和十七年の創立当初から授業の環境として農作業を行なっています。

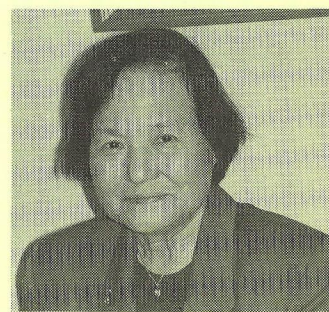
「畑を耕して小さな小さな種を蒔くと、芽がでてきた時、生徒はとても喜びます。ケシみたいに小さな種から、大きな大根ができることは驚きでもありますし。農作業から喜びと驚きの両方を学んでいくんですね。生徒たちは、『学校で作った野菜、おいしいね』って言って食べています」

おいしいと感じる理由は、自分たちが作ったということもあるだろうし、畑から採りたての野菜だからということもあるでしょうが、土作りに使う堆肥を学校で作る、栽培を

無農薬で行なっていることも大きいでしょう。畑の横には大きな堆肥場があり、生徒たちは調理の際に出る生ゴミや掃除の時に履き集めた落ち葉を入れて、堆肥にしています。

「堆肥を出す時には強烈な臭いがすることもありますが、生徒はあれこれ言います。でもいい野菜ができると、それは堆肥のおかげだってわかっていきますね。やはりこれは身をもって体験しないと」

農作業は『総合』という授業の一部として行なっています。総合の授業はA・B・Cの三つに分かれ、Aでは生命の学習として生きることや自



和田礼子校長

分自身について学びます。Bでは自分の身体で表現したりものを手で作ることに挑戦し、Cでは農作業や福祉を体験します。この三つは一見別々なものようですが、実はすべてが『生命』を考えることにつながっています。

「総合の授業は、自然の状況や生命のことを知る機会を、少しずつ重ねていく授業です。いろいろな生命によってわたしたちは支えられていてということを知ったうえで、生命を育てることもしています」と願っています。

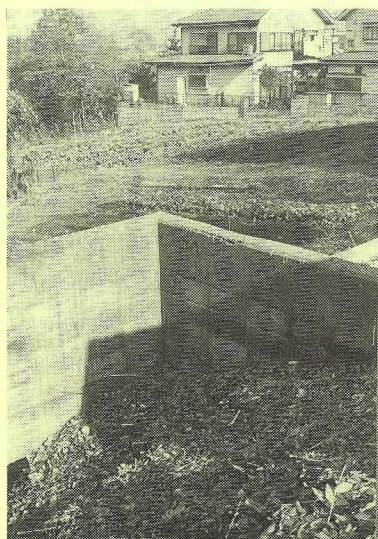
農作業は生命を育てることであ

り、生命を支える食べ物を作ることです。また、作業を通じて植物や虫の生命も感じるようになっていきます。

「畑を耕すとミミズがいっぱいでできますから、キャーキャー言ってますけれど（笑）、ミミズがいる畑は肥えた畑だということを話して何度も農作業をしていくうちに、『そうなんだ』って思うようになりますね。虫が嫌いな子どももいるけれど、虫によって支えられているものもあることを知るわけです」

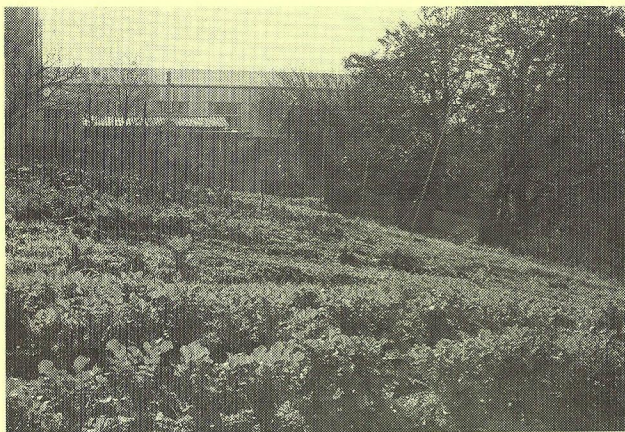
総合の授業だけを教える教師がいるわけではなく、クラス担任になると必ず総合の時間を持つことになっているので、教師も勉強し合っているそうです。指導する側としては苦労も多いことでしょう。

堆肥場。生ゴミを堆肥にし、紙は燃やして灰を畑に入れるため、生ゴミと紙とビニールの分別を指導している。横浜市がビニールも燃えるゴミとして回収するため、分別が生徒に浸透しないのが悩み



橘学苑（私立橘中学校・橘

▼おいしい野菜



畑には伸び伸び育った大根・キャベツ・白菜・ブロッコリー・チンゲンサイが。「そろそろ学期が終わるので、作った野菜を持って帰っていいと言ったら、喜んで持って帰りましたよ。大根の葉っぱがバックからはみ出ているけど平気です(笑)」

「ただ作業するとか労働するということだと、なかなか今の子どもたちは納得しないし嫌がりますが、何のために農作業をしているのかわかるにつれ、だんだん変わってきます。うちの学校に入学したら、心おきなく農作業するために、長ぐつを持って来させます。生徒全員の長ぐつが置いてある学校はめずらしいでしょうね(笑)」

卒業前に三年間の『総合』の授業をふり返って書いた文集を読むと、ほとんど土にふ

れたことのない生徒たちは、入学当初は爪に土が入ったりして汚れることが嫌だったり、農作業の授業があることが恥ずかしくて他校の友だちに話せなかったりしたようです。ところが三年経つと、想像以上に農作業になじみ染みむようになっていくことが伝わってきます。

育てた野菜は週に一回、総合の時間に当番のクラスが調理をして、学年でみんなが同じものを食べる『共同食事』の食材の一部になります。すべてを畑の野菜でまかなえるようになればいいのですが、一学年二百人分をそこまで計画的に作ることは難しいとか。メニューは、食を担当している教師と生徒が話し合っていて、畑では今度は何ができるとか、こういうものを作りたいけれど畑で採れるかどうかなどを、相談しながら決めていきます。

「共同食事とは、農作業で自分たちが育てた生命をいっただいて友達が作ってくれたお料理を、みんなと一緒にいっただ

くものと考えています」

▼自然にふれる

総合の時間には丸ごと一日をあて、じっくり取り組みます。細切れの時間では、農作業や福祉体験のために施設に行くことが難しいためです。

また、自然の現状にふれるため、高校に入学してすぐ三浦半島の小網代の森へ出かけます。その後も自然環境について実際に目で見る機会を作っていますが、鶴見川をテーマに選んで観察した学年もあり、川をさかのぼって源流まで見に行ったそうです。しかし、自然環境を知っているという考えでも、実際にリサイクルという形でそれを生かすのはなかなか難しいようです。

「学苑祭になると、生徒たちが紙パックを集めて紙すきをしたり、廃油で石けんを作ったりしていますが、まだ継続的にやるというわけにはいきません。リサイクルしようという気持ちはあるのですが、ではどうするかということではこれからの課題ですね」

すぐに形にならなくても、

三年にわたり様々な形で学んだことは、きっと意識のどこかに入りこんで、やがて何かのきっかけで生かされていくのではないのでしょうか。いろいろな体験を通してゆっくり自然や生命について学んでいくことも、大きな意味での環境教育と言えるでしょう。こ

うしたゆとりのある教育が、広がっていくといいのです。(よしのたかこ)

卒業文集から…

初めて農作業するため土にさわった時、はつきり言って嫌

でした。…そう思いながらやっていたのも、一年の最初のうだけでした。初めて私達が蒔いた種が芽を出した時、ものすごくうれしかった。芽を出してくれただけでもうれしかった。でも何よりうれしかったことは、その芽が成長しておいしく実をつけてくれたことです。岩間亜希子さん

農作業では、自分たちが生きていくために、自分たちの手ではじめから作っていく。これは

教育現場では様々な環境教育への取り組みが行なわれています。次回から隔月で、「環境教育への取り組み」について連載していきます。

本当はあたり前のことです。はじめは、そんなことに気づきませんでした。この農作業で知りました。吉岡若香菜さん

私達が農作業をやって、私達の手で農作物の命を育てる。そしてできあがった物を私達が食べる。命を互いに育て合っていると思いました。小林亜紀子さん

今まできらいだから食べなかったり、料理をしてもムダな使い方を捨ててしまったりしていたけれど、農作業を通して自分たちが手をかけて作ってきたものをムダにするということはできなくなりました。

池田裕香理さん



おすすめグッズ ～ 汚染の時代に～

リンスとオイル

ササキ ミチコ

前回、石けんシャンプーとリンスを紹介したところ、リンスは？のおたよりが。私の場合ですと使わない時もありますし、食酢をうすめることも、と リサイクルデザイン R D スタッフに伝えたら、食酢はちょっと…とのこと。

市販（といっても自然食品店あたりで）の石けんシャンプー用のリンスの表示を見ました。クエン酸・エチルアルコール・グリセリン・香料とあります。つまり石けんシャンプーを使って弱アルカリ性になった髪を、弱酸性のリンスで中和させるのですね。一方、合成の界面活性剤を使った一般のシャンプーとセットになっているリンスはというと、洗った後さらに合成の界面活性剤をかけることになります。サラサラヘアの元は、二重の合成界面活性剤なのでした。

さて、リンスになるものをいくつかご紹介しましょう。まず、食酢…洗面器に少したして薄める。柑橘類…しばって薄める。鍋物に使った残りでも。皮ごとしばるとオイル効果があるかしら。

薬局でクエン酸を買い、水で薄めて使う。ちょっとおしゃれにハーブを濃く煮出したもの200ccに2gの割合でクエン酸を加える。早めに使い切った方がいいかな。セージ・ローズマリーは黒髪に合うそう。よもぎやドクダミはどうでしょうね。

「100の洗い方と自家製石けん」によると、薄めのシャンプーで洗えばリンスは不要。よくすすげばいいのですね。フケが気になる人はシャンプー前に、椿油やオリーブオイルでマッサージし蒸しタオルで巻いてしばらくしてから洗髪するとよいそう。洗髪後、バサつく時にもオイルを少し手にとってなじませ、つけるといいでしょう。

ついでに、乾燥した肌にもすりこみます。鉱物性のトリートメントのように臭いが手から食物につきません。ハンドクリームとして私など調理の際の油を手につけてしまいます。掃除で荒れた手で、植物性の油では追いつかない時は、バニラ馬油がおすすめ。くちびるへも。たいてい薬局に置いてあります。



おすすめ本

「地球を汚さない
100の洗い方と自家製石けん」

自然食通信編集部／編
(株)新泉社 515円

ふのり・わかめ・小麦粉・うどんのゆで汁・卵白・とぎ汁・ハイビスカスの葉・アマチャヅル・サイカチ…これみんな髪を洗うのに使えるとか。食器・衣類・掃除・洗うこと全体をとり上げていて、目からウロコの一冊です。

ササキミチコ／一昨年から昨年にかけリサイクルデザインに「エコサイクル12か月」を連載。「おすすめグッズ」は今月から隔月掲載します。

●コピー用紙 (新聞古紙90%の再生紙)

平成8年12月現在

サイズ	入数	規格	1・2ケース	3・4ケース	5～9ケース
A4	2500枚	白 (白色度70%)	2,100円	2,000円	1,930円
		ピンク・イエロー・グリーン・サーモン	3,660円	3,480円	3,120円
B4	2500枚	白 (白色度70%)	3,200円	3,180円	2,800円
		ピンク・イエロー・グリーン・サーモン・パープル・ブルー	5,000円	4,800円	4,680円
B5	5000枚	白 (白色度70%)	3,200円	3,160円	2,780円
A3	1500枚	白 (白色度70%)	2,590円	2,560円	2,250円

●コンピュータ用紙 (β-ONハイパーフォーム15-11/新聞古紙83%)

入数	規格	5～9ケース
2000枚	白 (白色度60%)	2,900円

ご注文は

横浜市資源リサイクル事業協同組合

TEL 045-316-4050 FAX 045-316-6050

資源回収率を上げるために、厚紙や空箱を懸命に分別している方に耳寄りなお話。実は片面が白色の厚紙は、ハガキやすてきな名刺などに変身するのです。

▼片面が白色のもの
まず、婦人用ストッキングや下着の台紙のように、両面が白色の厚紙は、ハガキサイズ・名刺サイズに切り揃えてから、美しい紙の破片を三角や四角に切ったものを隅にワンポイント貼るだけで良いのです（和紙のワンポイントはなかなか味がありません）。

▼片面白色・裏面グレーのもの
化粧箱の中敷はほとんどがこのタイプです。このようなものは、名刺サイズにたくさんの線を引いてから、裏側一面に和紙等を貼りつけます。そして表側にも同じ和紙の破片をアクセントとして貼れば、裏表おそろいの柄になります。また、裏側の紙の色に合わせ、表側には別の破片を貼りつける、つまりリバーシ

ブルの名刺を楽しむという方法もあります。

▼片面白色・裏面印刷のもの
何とこれも生かせるのです。印刷面をまったく気づかれなくするためには、印刷面に貼る和紙を濃色にす

オ日本でも紹介していただきました。

▼分別／収納／まとめ作り
一見不用ゴミと思えるものも、分別を徹底することで改めて資源・素材として見直すことができます。そ

地球をまもる家事と工作

第10回
今年は超簡単 おしゃれ名刺

島 秀子
エコサイクル家事評論家



れば良いのです（裏がグレーの時はどんな色を貼りつけても良いのですが）。私は汚いものほど、より美しくしたいと常々思い、このような場合は藍染や藍色の大型和紙を買ってきてまとめて作ります。この名刺の評判はとても良く、ラジ

▼資源／コスト／満足度
最近では、ケナフ紙等の非木材紙が一部出てきましたが、やはり森林資源問題につながるバージンパルプの名刺が圧倒的な量を占めています。

コストですが仮に印刷なし（無地）の名刺サイズの紙を2箱（200枚）買うと800円。これにゴム印を押すにもどこか味気ないものです（印刷名刺は2箱で平均6400円です）。では手作りコストは？ グレー面を覆う包装紙が1枚30円、印刷面を覆う和紙が1枚600円、合計630円で、名刺200枚とハガキ10枚できたのです。

コストは大差ありませんが、使い心地には大きな差があります。それぞれの人の個性あふれるリサイクル名刺、もしいただけたなら私は何年たっても捨てられないような気がします。

注 接着はすべて薄め的小麦粉のりです。小麦粉大さじ1を水2カップで少しずつのばしてから火にかけ、のり状になるまで静かにかきまわして作ります。

再生紙を使ってみませんか！

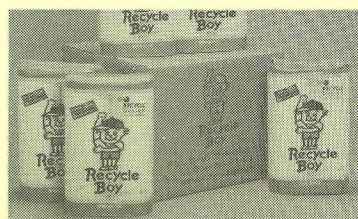
私たちの資源回収で生まれた〈新聞古紙・上質古紙〉を含んだ再生紙です

地球環境を保護することにこだわり、環境汚染をなくすよう配慮して作りました。再生紙を使うメリットは、省エネルギー・ゴミ減量・森林保護に役立ち、しかも経済的なこと。私たちの願いは、地球の未来のために住みやすい環境を作ることです。

●リサイクルボーイ トイレットペーパー（上質古紙100%の再生紙）—— さわったお尻は忘れない

サイズ	1ケースの入数	規格	10ケース以下	11ケース以上
シングル(芯なし)	(1ケース8パック/1パック6ロール)48個	130m	1ケース3,360円	1ケース3,000円

*上記価格は、1回のご注文につき1ケースあたり(各種・各サイズ込み)の価格です。消費税が別途かかります。
*配送は、受注後2~3日以内(土・日は除く)。送料は無料です。10ケース以上のご注文については、別途ご相談ください。



家具を、資源を、 もう一度生かしたい！

〈横浜市・リサイクルプラザ／資源回収センター〉

引っ越しや置き場所がないなどの止むを得ない事情で、まだ使える家具類を処分しなければならない方は多いと思います。リサイクル組合の事務所にも、ご相談の電話をかなりいただきます。

そのような時には、『リサイクルプラザ』をご利用下さい（リサイクルデザイン6号でも紹介しています）。まだ使える家具を引き取って展示し、必要な方には五百円の賛助金をいただいて譲っています（希望者が多い場合は抽選で）。ただし、利用できるのは横浜市民に限ります。現在、横浜市には三か所あります。

●青葉リサイクルプラザ 青葉区荏田西1-5-16
☎911-6255

●鶴見リサイクルプラザ 鶴見区末広町1-15
☎521-0480

●港南リサイクルプラザ 港南区日野南3-1-2
☎834-1580

いずれも、午前9時30分～午後4時30分。月曜休み。
希望する方は、必ず事前に連絡してから持ち込んで下さい。

今年から横浜市でも事業系ゴミと粗大ゴミの回収が有料化されました。粗大ゴミとして出せば、お金がかかるしゴミも増えるだけ。持ち込めばゴミにならずにもう一度生かせるわけですから、利用してみてはいかがでしょうか。

また、港南リサイクルプラザの隣には、集団回収などに参加できない方たちが直接資源を持ち込むことのできる施設『港南資源回収センター』（☎832-2900）があります。回収品目は、紙類（新聞・雑誌・段ボール・牛乳パック→種類ごとに分類して十文字にしぼる）、布類（古着・古繊維・タオル・シーツ→十文字にしぼるかポリ袋に入れる）、空き缶（スチール・アルミ→中を空にして洗う）、ガラスびん（ワンウェイびん・ビールびん・1.8ℓびん→中を空にして洗う）です。

なお、買い取りはせず持ち込みだけ、また事業系のゴミは受けつけていませんのでご注意ください。

この数字
ななんだ？

8.4枚



スーパーやコンビニで買物をすると、品物を入れて手渡してくれる手さげつきのポリ袋。何気なく受けとってしまいがちですが、95年に通産省が試算したところによると、一世帯あたり週に8.4枚受けとっている計算になるとか。全国で1年間に使われるポリ袋を平らに並べると、山手線に囲まれた面積の3.5倍にもなるのだそうです。

家に持ち帰った後、ゴミ袋として使う人も多いようですが、どちらにしても、ゴミになっってしまうもの。全国の人が週に1回でも、「袋は結構です」と口にして、8枚のポリ袋を7枚にするだけでも、1年間に1万8千トンのゴミ減量になります。

いつも、というわけにはいなくても、買物にはできるだけ買物袋を持ってゆかけ、ポリ袋を受け取らないようにして、少しずつでもゴミを減らせるといいですね。

新年あけましておめでとう
ございます。平成九年の新春
を皆様方にはご家族共々ご無
事にお迎えのこととお喜び申
しあげます。

ご愛読をいただいております
月刊「リサイクルデザイン」
も、昨年は従来の配布先の区
役所や地区センターに加え
て、横浜市立の小学校、中学
校、高等学校に広げさせてい
ただくことができ、「リサイク
ルデザインCLUB」の個人

市政と市民をつなぐ リサイクルを

横浜市資源リサイクル事業協同組合 理事長

中野 聡 恭

配布を含めて毎月一万部を発
行するまでになりました。編
集部に寄せられた多くの方々
の貴重なご意見、ご激励に感
謝申し上げます。

振り返ると、昨年はリサイ
クル時代といわれる中で、資
源回収業界にとっては取扱商
品の値段が下がり、事業形態
が問われる厳しい一年でし
た。殊にご家庭より排出され

る雑誌古紙に至っては、集ま
れば集まるほど赤字になり、
リサイクルシステムと経済シ
ステムの狭間で回収業界のあ
り方が問われました。時代の
変化は時として善良な弱者に
その皺寄せを起こします。
日々資源を無駄遣いせずゴミ
は出さない善良な市民と、末
端で回収作業をする零細回収
業者の軋轢がそれです。そん
な善意と善意のぶつかる不毛
なトラブルが起こらないよう

横浜市でも事業系ゴミと、粗
大ゴミ回収が有料化されま
す。経済的インセンティブを
与える事でゴミの減量化をは
かる政策は、有効な方策と一
応理解できるところですが、
これらの制度が定着するまで
に混乱が起きるのは、またま
た回収現場です。その上に問
題を複雑にしているのが産業
経済のボーダーレス化です。
リサイクル問題は資源問題、
エネルギー問題、自然環境問

に行政と市民と回収業者がお
互いに情報交換ができて、互
いの立場を理解し、共通の目
的とする豊かな循環型都市

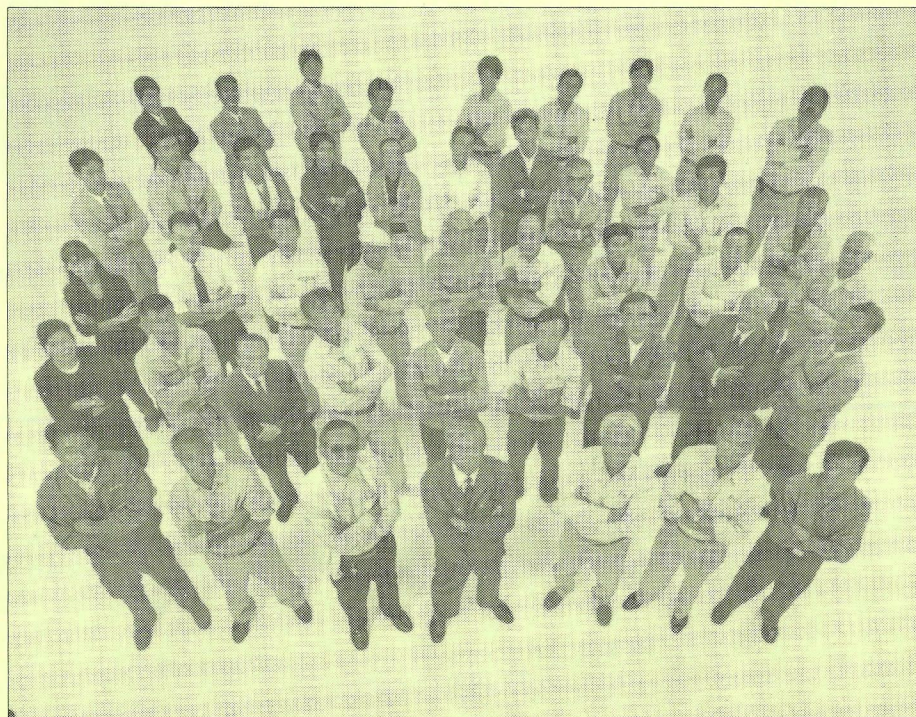
題、ゴミ問題、労働問題、法
律制度問題でもあります。

月刊「リサイクルデザイン」
も本年から、倍の八ページに
増やし、紙面の拡張と内容の
充実に努めて参ります。昨年
にも増してご愛読者の皆様方
のご指導とより一層のご英知
をお貸しいただきますよう、
お願い申し上げます。

今年是我が国環境行政にと
って画期的な「容器包装リサ
イクル法」が施行されます。

「よこはま」づくりに役立つ場
所が提供できる、そんな「リ
サイクルデザイン」でありた
いと願っています。

一九九七年元旦



*インセンティブ 奨励、刺激

この写真は先月号で紹介したイベント「ウエステック」の展
示パネルのために撮影したもの。評判は上々でした。最前列の
中央が中野理事長、そのまわりを囲むのが役員と組合員、事務
局スタッフ。これで組合員全体の約三分の一の人数です。
皆さんの町を回収にまわっている業者はいらっしゃるか？

リサイクルに伴う標準価格表

平成8年12月現在

品名	買入価格*	業者の売値 12/12日経新聞より
新聞	1kg 0円	1kg 6円
雑誌	設定できず**	1kg 0~1円
段ボール	1kg 0円	1kg 6円
衣類くず	1kg 0円	1kg 4~5円
アルミ缶	1kg 10~20円***	

* 集団回収には「買入価格」が適用されます。

** 有料の場合もあります。

*** スチール缶などと選別してある場合の価格です。

★ この価格は、500kg以上回収する団体に適用されます（個別回収は除外）。

また取引条件により、多少の変化があります。

段ボールの回収標準手数料（集団回収以外）

★ 集団回収以外での段ボールの回収には、1回3,000円以上の手数料がかかります。

★ 段ボールは必ず束ねて出してください。



❖ ちいさなひとつが積み重なって、たくさんになる。リサイクルやゴミのことを考える時、いつもそれが基本になっているなあとしみじみ感じます。リサイクルデザインが、たくさんさんのちいさな一歩を踏み出す後押しができたらうれしい！そんな気持ちで新しい年を迎えています。

（RETURN）

♥ 今年はうし年。私の年。そう年女です。目標いろいろ考えてみたけど（謙虚になる、女らしくなるetc.）ムリそうなので、目標持たずに目の前のこと一つ一つ挑戦していこうと思っています。

とりあえず今年もリサイクルデザインをよろしく願います。（女王様）

♪ 明けましておめでとーございます。市況は相変わらず芳しくないようですが、再生業が真に日の当たる業界となり、リサイクルの歯車が着実に組み合せて前身する環境を目指して行きたいと思います。そして今年も昨年以上に情報発信基地として「リサイクルデザイン」の充実・発展に努めたいと思いますので、よろしくお願いします。（エアバック）

☆ 「ふー、ようやく年を越せた。あつといけねー、神様に願かけの忘れた。今年こそ古紙が売れますように」
（古紙問屋のひとり言）

編集後記

新春スペシャル



What's リサイクル？

リサイクルに関してわからないことがあったら、FAXを送ってください。どんな小さなことでもOK。あなたの疑問をできる限り早く解決します（目標3日以内）。FAXのご質問には、必ず住所・氏名・FAX番号をお書き添えください。FAX番号のご記入がないとお返事ができないのでご注意ください。リサイクルデザインに採用させていただく場合もあります。採用させていただいた方には、リサイクルボーイ・トイレットペーパーを差し上げます。

● 専用FAX

045・316・5122

“リサイクルデザインClub” 会員募集

月刊リサイクルデザインは、市内の一部の区役所・地区センターで無料配布していますが、会員として定期購読して支えてくださる方も募集しています。

ご希望の方は、1年分1,000円（郵送料相当）を郵便局の振替用紙を使ってお振込みください。

口座番号 00210-3-64725

加入者 横浜市資源リサイクル事業協同組合
お届けは毎月20~23日。特にご指定がなければ、最新号からお送りします。

また、イベントなどについての情報を、別途お知らせします。



月刊 リサイクルデザイン
No.29

発行日 1997年1月15日

発行人 中野聰恭

編集人 宗村隆寛

発行所

横浜市資源リサイクル事業協同組合
〒220

横浜市西区平沼1丁目33番1号
東洋建物横浜ビル5階
TEL 045・316・4050
FAX 045・316・6050

スタッフ

山岡秀明・武松昭男
杉山宜利・竹澤留美

ライター 島秀子・ササキミチコ

イラスト いとうみき

編集・制作 よしのたかこ

印刷 オリジナルプランニング